

重症筋無力症の患者様の中で、
平成 26 年 4 月 28 日から平成 29 年 3 月 31 日の期間に
胸腺摘出術を受けられた方へ

【研究タイトル】 胸腺の免疫学的検討

1. 本研究の意義および目的

重症筋無力症において胸腺摘出術は、1939 年以降有効な治療法のひとつとして確立されてきました。重症筋無力症では胸腺病変を伴うことが多く、胸腺組織からみると胸腺腫、過形成、正常胸腺に分類されます。大半の重症筋無力症においては、アセチルコリン受容体に対する自己抗体が検出され、患者様の胸腺内では、こういった自己抗体の産生を未然に防ぐための機構（自己寛容）に何らかの問題が生じていると考えられています。また胸腺腫があっても重症筋無力症になるものとそうでないものがあります。こういった背景をふまえ、胸腺組織を用い、免疫機構に関わるとされているリンパ球（胸腺細胞）や周辺細胞の性質を調べることで原因を解明していくことを本研究の目的としております。

2. 研究の方法

胸腺摘出の適応のある患者様から胸腺の一部を使用させていただきます。これらの検体を用い、発病との関係を調べます。

3. 試料等の保存および使用方法について

胸腺組織をナンバリングの上、神経内科の-80℃の冷凍庫にて凍結保存します。なお、背景疾患によっては、心臓血管外科や呼吸器外科の先生から、患者様もしくはご家族に説明頂き、胸腺組織を神経内科で保管することもあります。その後、保管した胸腺を用い、免疫染色やフローサイトメトリーによる解析を行います。

4. 研究全体の期間と予定症例数

研究期間は平成 26 年 4 月 28 日から平成 29 年 3 月 31 日までです。MG で胸腺摘出をうける患者 20 例，MG 非合併胸腺腫患者 10 例，新生児・小児・成人心臓手術患者 20 例を予定しています。

5. 研究結果の公表について

研究の成果は、提供者本人やその家族の氏名などが明らかにならないようにした上で、学会発表や学術雑誌およびデータベース上等で公に発表させていただきます。

6. 個人情報に関して

第3者が個人情報を閲覧することができないようにしております。また、本研究の実施過程及びその結果の公表（学会や論文等）の際には、患者さんを特定できる情報はいっさい含まれません。

7. 本研究への参加を拒否する場合

この研究への参加は自由です。同意しなくてもあなたの不利益になるようなことはありません。参加を拒否される場合には下記連絡先までご連絡ください。

8. 研究機関、研究責任者および研究者

【研究機関】 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部

【研究責任者】 臨床神経科学分野(神経内科) 梶 龍児

【研究者】 臨床神経科学分野(神経内科) 松井 尚子

9. 連絡先

電話番号 088-633-7207

FAX 番号 088-633-7208